

情報：EF（社機私用搭乗制度）の復活について労働組合の交渉状況についてニュースから抜粋してお知らせします。

● JALFIO（JAL労働組合）SONIC No. 42-009 から抜粋

「賃金をはじめとする労働条件全般に関する取り組み⑨」2011. 04. 11

制度改定後のフォローアップを中心にこれまで議論した内容を報告します

＝社機私用搭乗制度、永年勤続表彰等に係わる協議については継続していきます＝

企業福祉・人事制度等に関する取り組みについては、取り組み基本方針に基づき3月7日（月）、4月6日（水）の2回に亘り、労働・次世代・安全衛生・健康対策・厚生に関する合同専門委員会を通じて、制度改定後の運用状況に関するフォローアップを中心に議論を行ってきました。

4月6日（水）の合同専門委員会終了後の本部執行委員会では、前回3月7日（月）の協議を含め、これまで議論してきた内容を踏まえ、各項目の課題について分析・検討を行いました。なお、社機私用搭乗制度等については職場の声を踏まえ、引き続き協議を行っていきます。

季節特別休暇（SV）については、「当面の間、実施見送りを継続する」との会社提案に対し、JALFIOは、労使で生産性向上の効果などを確認しつつ、その必要性について議論したうえで判断すべきであると主張しました。その結果、当面2011年度に限定した対応として、「『労働協約に関する覚書』に付帯する確認書」を締結することとします。

● 日本航空ユニオン宣伝ニュース WING No 239（02-20）2011年4月11日から抜粋

「社員に活力を与えるEF 制度の復活を」

組合 EF 制度は、更生手続終了後に検討するとしてきたが、いつを目処に復活させるのか。

会社 会社を取り巻く状況が大きく厳しく変化した中で、今は復興支援や、独り立ちのための収支改善が最優先の課題となっている。また、利害関係者の理解が必要であり、引き続き慎重に検討している。

組合 3 月末に支給した生活調整手当に関する世論の反応など、どうみているのか。例えば、この時期にEF を復活させたらどうなると分析しているのか？

会社 会社の収支状況が明らかに厳しくなる中で、検討という言葉が軽々にいえる状況ではないと思っている。

組合 EF 制度廃止時の交渉では、会社は「航空会社にとって経済的にメリットがある制度」だと認めていた。そもそも空席利用で収支には関係なく、収支状況を理由にすることは納得できない。

会社 EF 制度が航空会社の社員にとって大切な制度であるとの認識に変わりないが、注目度も高く、慎重に取り扱わなければならない、今はその時期ではない。

組合 ひとつの区切りがつき、これから頑張ろうという時期に、そうしてずるずると引っ張れば、社員のモチベーションもあがらない。更生手続の中で、多くの仲間が会社を辞め、大変な思いをしてここまでたどり着いた。そこに応える姿勢を持つべきで、それが社員の気持ちの変化にもつながっていく。